

墓碑銘2021

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないまま2021年が幕を閉じる。混迷の世に希望と指針を与えた各界の立役者が今年も旅立ち、不帰の客となった。愛することの大切さを説いた作家・僧侶、ひたむきに生きる主人公の作品が国境を超え共感を呼んだ脚本家、世界の科学界をリードした研究者、そして「知の巨人」と呼ばれた評論家も。

海外では、フランス映画の顔として大活躍した女優、鮮やかな色彩感覚で日本でもファンの多い米国の絵本作家…。哀惜の念をこめ、二度と会えない人たちの生のドラマに思いをはせる。

(文中敬称略、年齢の次は死去した月日、芸名などは本名略、海外は現地時間)

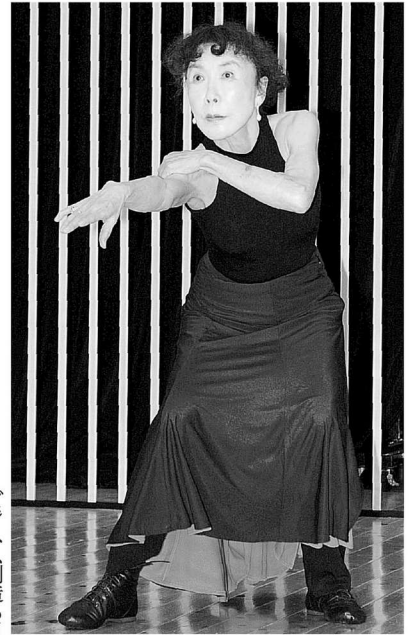
県内

本県でも各方面で足跡を残した人たちが旅立った。

植物研究に尽力

高知から創作バレエを発信し続けた舞踏家の内山時江(85歳、8・7)は、平櫛バレエ団(広島を経て1960年に高知市で独立。内山時江・王タン・バレエ研究所)主宰として多くの後進を育てた。94年に「婉」という女で文化庁芸術祭賞受賞。2006年からは、亡き夫への思いを込めた「ア・ナ・タ」シリーズを披露し、80歳近くまで舞台に立ち続けた情熱の表現者だった。

県観光コンベンション協会元会長の岡内啓明(77歳、4・1)は柔軟なアイデアと行動力を伴った経済人として知られた。食材・調理器具卸・丸三の社長、会長を務め、土佐経済同友会代表幹事として活性化策を積極提言。NPO法人「高知の食を考える会」を結成し、食



80歳近くまで創作バレエを発信し続けた内山時江さん

内山時江さん 情熱の表現者

二郎(88歳、11・28)も鬼籍に入った。子どもに寄り添う

(90歳、2・2)は、美術作家の入交京子(90歳、2・27)は故高崎県芸術祭執行委員会委員長、高知市文化振興事業団理事長などを務め、本県の文化・芸術振興に取り組んだ。

県出身者を支援

経済界では、三井物産元副社長で、森ビル特別顧問などを歴任した渡辺五郎(86歳、2・16)の訃報が届いた。本県出身の有識者として組織する「土佐二十日会」会長も務め、同郷人支援にも積極的だった。

中津満子(99歳、3・25)は、中津商店創業者。1951年、夫と共に米軍の払い下げ衣料品を扱う店を開き、本県「シンズショップ」の草分けとして長く親しまれた。

藤本幾雄(94歳、5・9)は城西館会長。高知を代表する旅館へと育てた母の種子から継ぎ、1982、99年に社長。国際観光旅館連盟、日本観光旅館連盟の副会長も務め、業界の顔としても活躍した。

宇田耕也(94歳、12・17)は1975、78年、土佐電鉄(現とさでん交通)社長として経営再建に力を注いだ。学校法人土佐高校の理事長も務めた。

川添建太郎(41歳、7・22)は川添ヤギ牧場(南国市)代表。国内最大規模の頭数を育て、さらなる事業拡大が見込まれる矢先に急逝した。

坂井満夫(81歳、11・11)は1999、2005年にひまわり乳業社長、13年まで会長を務めた。

江口俊男(89歳、10・23)は04、09年に県森林組合連合会会長を務めた。

浜田純(82歳、4・23)は南国市長を1995年から連続3期務めた。武政治太郎(97歳、12・8)と箭野寅書(94歳、8・29)は元越知町長。高知市議会議長だった田鍋剛(60歳、3・8)は在任中に旅立ち、元同市議会議長の尾崎

岡内啓明さん「おまち」を宴会場に

ビジネス創造も目指した発起人になった高知市の中心街を宴会場に見立てる「土佐のおきやく」は経済波及効果8億円の超の人気イベントへと育った。

沢良木庄一(97歳、1・14)は四万十市出身。植物研究を通して自然環境保護に尽力した。教員時代から野山を歩き、著書「清流四万十川を探る―自然と人と植生の旅―」は環境庁の水環境賞、県文協協会の寺田寅彦記念賞を受賞。県植物レッドリスト作成にも携わった。2015年から日本防災植物協会の理事長として、食用野草の知識を広めていた。

高知新聞社元社長で名誉顧問の橋井昭六(17)は1975、78年、土佐電鉄(現とさでん交通)社長として経営再建に力を注いだ。学校法人土佐高校の理事長も務めた。

川添建太郎(41歳、7・22)は川添ヤギ牧場(南国市)代表。国内最大規模の頭数を育て、さらなる事業拡大が見込まれる矢先に急逝した。

坂井満夫(81歳、11・11)は1999、2005年にひまわり乳業社長、13年まで会長を務めた。

江口俊男(89歳、10・23)は04、09年に県森林組合連合会会長を務めた。

浜田純(82歳、4・23)は南国市長を1995年から連続3期務めた。武政治太郎(97歳、12・8)と箭野寅書(94歳、8・29)は元越知町長。高知市議会議長だった田鍋剛(60歳、3・8)は在任中に旅立ち、元同市議会議長の尾崎

横山隆一記念まんが館(高知市)元館長の小松康夫(75歳、8・2)、大原富枝文学館(本山町)元館長の山下伸男(90歳、8・26)も逝った。

高知医科大学(現高知大)名誉教授の西沢邦輔(92歳、3・17)は医科大の英語教室で教え、清和学園理事長も務めた。

高知大名誉教授の長崎亀(94歳、10・29)は発酵・醸造学で功績を残した。

小川純平(71歳、6・18)は黒潮ボクシングジム(高知市)前会長で、日本チャンピオンや世界ランカーら50人、以上のプロボクサーを育てた。

「チャイルドラインこうち」代表理事の関田浩美(60歳、9・22)は電話窓口や多彩なボランティア活動を通して、いじめや虐待、進路などに悩む子どもに寄り添った。

ひょうひょうとした人柄と映画愛で慕われた、あだこ劇場(高知市)2代目館主、水田朝雄(72歳、10・16)も旅立った。